

TNC
通信

2021
11月号

魯迅逝世85周年・碑建立60周年・像寄贈20周年・生誕140周年の意義を込め
＝ 献花式 ＝



10月19日、秋空の下、仙台市博物館横の「魯迅之碑」前で、約40名が参加して恒例の献花が行われました。

初めに仙台魯迅顕彰会・郡和子仙台市長からのメッセージを高橋新悦副市長が代読し、明年の春を目指して、片平の魯迅故居跡に進められている“公園・広場”の工事について話がありました。

続いて県協会・佐々木謙会長からは「コロナ渦の中、魯迅関連の行事も行われなかったが、今日は魯迅の様々な節目の意義を込めて挙行できた。日本と中国、また吉林省や紹興市との交流が一層進展することを誓い合いたい」と挨拶がありました。仙台地区中国学友会を代表して、崔燦(さいさん)副会長は「魯迅の『故郷』や『藤野先生』を日中が学習教材としており、ゆかりの地で学生生活を送る事を誇りとして、頑張っていきたい」と挨拶。さらに宮城県商工観光部国際政策課・江間仁志課長からも「明年、吉林省との友好交流35周年にあたり、一層の交流が深まるよう期待している」と挨拶がありました。



また県協会・蕪武多四郎相談役から「魯迅之碑」建立の経緯や許広平夫人が参加した除幕式などについての説明の後、代表による献花(写真⑤)があり、更に全員で記念撮影を行いました。この日は富谷市日中からも多忙な中、3名の参加がありました。ご協力ありがとうございました。

また紹興市より寄贈された「魯迅像」(2001年11月)を囲み、留学生が記念撮影(写真⑥)を行い、意義を留めました。なお像の前での全員での写真は20周年の意義を込め、紹興市に贈ることになりました。

【丑年アラカルト】

「蝸牛(かぎゅう＝かたつむり)角上の争い」 丑から離れてしまったがお許しを。かたつむりの右の角と左の角が争うような、狭い世界で小さなことで争う事の譬え。宇宙から見た地球上の世界かも。『荘子』

松田副会長が
県協会・理事に

県協会定期総会(書面審議の開催)で富谷市日中の松田勝幸副会長が新理事に承認されました。

『中国少数民族民話』「土家(ドウチャ)族 大きな牛皮」2

「そっ、そんなに長いのかー？」竹職人ははいよいよ得意になり、「お前さんのあの太鼓は、オレが籬(たが)を掛けたんだぜ！ もしもその長い竹がなかったら、お前さんの太鼓には籬を掛けられなかっただろうなあー」

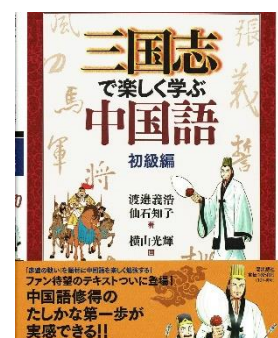
この時、傍らで二人のやりとりを聞いていた牛飼いの子どもが、いつのまにか口をはさみ、「お二人さんお話は、珍しくもなんともないよ！ 僕は『呂洞山』(中国五名山の一)の麓で牛飼いをしているけれど、呂洞山はとても高い山で、見上げると、被っている帽子が後ろに落ちてしまうほどなんだ。それである日、どこから来たのか知らないが、一頭の水牛が麓にいて、首を伸ばして頂上の草を食み、尻尾は洞庭湖に投げ出して、水浴びをさせていたよ」

これを聞いた太鼓職人と竹細工職人は、とても信じられず、驚きの声とともに、詰問ぎみに返しました。「どこにそんな大きな牛がいるか！」。すると牛飼いの子どもは、洒落っ気たっぷりに、しかし嘲笑して、「いないよ、いるわけがないだろう！ いたとしても、どうやったらそんな大きな牛の皮を、太鼓に被せられるんだい？」

二人の職人は、子どもが自分たちをからかっていると気づいて、気恥ずかしくなり、その場に居たたまれなくなって、自分の部屋に戻って行きました。

「三国志で楽しく学ぶ中国語(初級編)」 渡邊義浩・仙谷知子著・潮出版社 1650円

何より横山光輝画の『三国志』の名場面を楽しみながら、普通の入門書と同様に文法、単語、会話を学べる。そして各ページに音声QRコードがついているのでスマホで手軽に学べる。



これまで中国語に挑戦したものの挫折した方も、新たなチャンスかも知れませんね。